

## 第2章 教育事業の実際

### モデル的プログラム開発事業

# 「ふるさと体験活動教室」

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家  
[共催] あしきた青少年の家（一の宮中校区）  
[後援] 熊本県教育委員会・阿蘇市教育委員会  
[協力] 阿蘇市立宮地小学校・阿蘇市立坂梨小学校・阿蘇市立古城小学校（一の宮中校区）  
阿蘇市立山田小学校  
阿蘇市立尾ヶ石東部小学校 阿蘇市立阿蘇小学校 阿蘇市立内牧小学校  
[期間] 平成25年7月1日(月)～7月5日(金) 4泊5日 一の宮中校区  
平成25年7月29日(月)～7月31日(水) 2泊3日 山田小学校  
平成25年8月19日(月)～8月23日(金) 4泊5日 阿蘇中校区 募集編  
[実施場所] 国立阿蘇青少年交流の家  
[参加者] 一の宮中校区（宮地・坂梨・古城小学校） 児童93名  
山田小学校4・5年生 児童17名  
阿蘇中校区 募集編 児童8名

#### [検討委員会委員]

独立行政法人国立青少年教育振興機構	顧問	明石 要一 氏
熊本県阿蘇教育事務所	指導主事	中村さおり 氏
阿蘇市教育委員会	教育部長	江藤 龍二 氏
阿蘇市教育委員会	審議員	井上 利之 氏
阿蘇市立宮地小学校	校長	工藤 英治 氏
阿蘇市立坂梨小学校	校長	和田 孝司 氏
阿蘇市立古城小学校	校長	市原 潤 氏
阿蘇市立阿蘇西小学校	校長	高本 省吾 氏
阿蘇市立山田小学校	校長	松壽 文子 氏
阿蘇市立波野小学校	校長	井上 正広 氏

#### [講師]

##### 《一の宮中校区》

研修指導員 阿蘇の大自然の成り立ちと環境保護について	古澤 順正 氏
阿蘇火山博物館	火山防災学習 森 由佳 氏
阿蘇火山博物館	火山防災学習 玉置 久弥 氏
研修指導員	キャンドルのつどい 薄井 良文 氏

##### 《山田小学校》

研修指導員	野外調理 藤原 美里 氏
研修指導員	烏帽子岳登山 古澤 順正 氏

##### 《阿蘇中校区 募集編》

高森お話グループ	民話・昔話 後藤 良子 氏
高森お話グループ	民話・昔話 長崎てつよ 氏

高森お話グループ  
 研修指導員  
 研修指導員  
 ボランティア  
 ジオガイド  
 ジオガイド  
 研修指導員

民話・昔話 沼田 洋子 氏  
 沢遊び・高岳登山 西田 耕作 氏  
 高岳登山 宮川 将一 氏  
 高岳登山 井島 義昭 氏  
 ジオ探検 広瀬 顕美 氏  
 ジオ探検 山本 セツ 氏  
 キャンドルのつどい 市原 正 氏

## 1 趣 旨

- 阿蘇・芦北のフィールドを活用して、自然体験活動の充実を図るプログラム開発を行う。  
 (一の宮中校区)
- 阿蘇のフィールドを活用して、自然体験活動の充実を図るプログラム開発を行う。  
 (山田小学校・阿蘇中校区募集編)

## 2 目 標

- (1) ふるさとのよさに気づくことができる。
- (2) 協力して助け合う心を育むことができる。



## 3 事業展開

### (1) 研修プログラム

#### ① 一の宮中校区プログラム

	7月1日(月)	7月2日(火)	7月3日(水)	7月4日(木)	7月5日(金)
	出会い	感じる	知る	見つめる	伝える
午前		海水浴 磯観察 (貝殻・小流木拾い)	退所式 水俣病資料館見学	クラフト活動(貝殻・ 小流木を使って) 道徳(日達聖人と仏 舎利塔)	阿蘇検定 ウォークラリー 退所式・アンケート
午後	あしきた青少年の家 入所式 ペーロン体験	ピングオリエンテー リング	熊本県環境センター 見学	火山の働きや防災を 学習しよう!(阿蘇 火山博物館見学) レクリエーション (ドッジビー)	
夜	ナイトゲーム ふりかえり 明日の目標設定	ふりかえり 明日の目標設定	阿蘇青少年交流の家 入所式 OR ふりかえり 明日の目標設定	キャンドルのつどい シュラフを使った宿 泊体験	

② 山田小学校プログラム

	7月29日(月)	7月30日(火)	7月31日(水)
	出会い	見つめる	伝える
午前	仙酔峡から阿蘇を見渡そう 水基めぐり(フィールドビンゴ)	烏帽子岳登山	テント撤収 阿蘇検定ウォークラリー ふるさとのよさを伝えよう 退所式
午後	入所式 アイスペレイキング 野外調理 (高菜飯・だご汁)	マイ箸作り テント設営 (草原テント)	
夜	ふりかえり 明日の目標設定 シュラフを使った宿泊体験	キャンドルのつどい 草原テント泊	

③ 阿蘇中校区 募集編 プログラム

	8月19日(月)	8月20日(火)	8月21日(水)	8月22日(木)	8月23日(金)
	出会い	感じる①	感じる②	見つめる	伝える
午前		沢遊び (飛び込み体験)	ジオパーク探検 (水の起源を探ろう) 阿蘇神社 手野の名水 池山水源 大観峰	感じたことを五・七・ 五で表してみよう 高岳登山	阿蘇検定 ウォークラリー 退所式・アンケート
午後	入所式 アイスペレイキング ドームテント設営 野外調理(高菜飯・ だご汁)	野外調理 (山のパエリア作り)		 スタンプ練習	
夜	阿蘇の民話を聞こう スタンプ練習 キャンプ場宿泊	スタンプ練習 ふりかえり キャンプ場宿泊	スタンプ練習 ふりかえり キャンプ場宿泊	キャンドルのつどい キャンプ場宿泊	

(2) 目標達成のための工夫

① 一の宮中校区(4泊5日の海と山を組み合わせたストーリー性のあるプログラム作り)

一の宮中校区は、 出会う→感じる→知る→見つめる→伝えるという流れで実施した。

ふるさとのよさに出会うために、講師に古澤氏を招き、阿蘇に降った雨が芦北方面にも流れることや阿蘇の山が何回か噴火して、今の子どもたちが住む町になったことなどを丁寧に解説していただいた。子どもたちは、今まで知らなかったふるさと「阿蘇」と新たに出会うことができた。一方、芦北では、あしきた青少年の家の職員の方からオールの漕ぎ方を習い、ペーロン体験を行い、海との出会いをもたせた。

ふるさとのよさを感じるために、海水浴を実施した。ただ泳ぐだけでなく、船からの飛び込み体験、磯観察、貝殻拾いなどを楽しむことで海のおいを感じる事ができた。

ふるさとのよさを知るために、水俣病資料館や熊本県環境センターへ行き、水俣病の恐ろしさや

水を汚すことの悪影響について知ることができた。

ふるさとのよさを見つめるために、芦北で拾った貝殻などを使ったクラフト活動を行った。完成した作品から芦北での活動を想起していたようである。また研修指導員の薄井氏を招き、静寂の中、燃える灯を見つめながら、キャンドルのつどいを行った。子どもたちは、今までの研修をふり返ることができた。

ふるさとのよさを伝えるために、交流の家の敷地内を使って、地元の阿蘇の問題を解いていく阿蘇検定ウォークラリーを実施した。その後、4泊5日のふりかえり活動を行った。4泊5日をおとして、参加した子どもたちは、他の学校の友達と仲良くできて、交流が深まったことや家族、先生、ボランティアの方々への感謝の気持ちがわいてきたこと、芦北の自然のよさと阿蘇の自然のよさがわかったなどの感想をみんなの前で伝えることができた。

このように、4泊5日で海と山の活動を組み合わせて体験させることによって、目標の達成に迫ろうと考えた。



飛び込み体験



クラフト活動

## ② 山田小学校（2泊3日の阿蘇フィールドにおける短期プログラム作り）

ふるさとのよさに会う→ふるさとのよさを見つめる→ふるさとのよさを伝えるという流れで実施した。

出会う場面（仙酔峡から阿蘇を見渡す場面）では、自分のふるさとの町についてじっくりと眺めたり、阿蘇五岳の話の聞いたりしながらふるさとと出会っていく姿がみられた。

また阿蘇神社周辺の水基に関するクイズを、実際に見て回って解いていく水基めぐりを実施した。そこでは、おいしい水との出会いがあった。

草原でのドームテント作りでは、意図的に子どもだけで作る場面を設定した。このことにより、協力し合う姿が見られると考えたからである。子どもたちは初めての体験でとまどっていたが、グループで何とか作ろうと必死に協力していきながら完成させることができた。夜のキャンドルのつどいでは、レクリエーションの最後に輪になって校歌を歌い、友達、先生との絆を深めていった。

伝える場面では、ふりかえりの際、水基めぐりで、阿蘇の水のおいしさに気づいたことやみんなと協力したから活動できたことなどを緊張しながらも、みんなの前で手を挙げて伝えることができた。

このように、2泊3日の短期間で目標を達成させるために、活動内容の精選を図った。



水基めぐり



草原でのドームテント作り

### ③ 阿蘇中校区 ～募集編～（4泊5日の阿蘇フィールドにおけるプログラム作り）

ふるさとのよさに出会う→ふるさとのよさを感じる→ふるさとのよさを見つめる→ふるさとのよさを伝えるという流れで実施した。

ふるさとのよさに出会う場面では、ドームテント作りを行った。ドームテントを作る中で、テントをともに作る友達との出会いがあった。「大観峰から阿蘇を見渡す」場面では、「カルデラを大観峰からみるときれいだった。」という感想も見られ、地元阿蘇との出会いがあった。

ふるさとのよさに出会い、よさを感じるために、野外調理は、2回実施した。1回目は、初めての野外調理で、野菜を切ったり、火をつけたりすることへの苦勞との出会いがあった。しかし2回目の野外調理では、1回目よりも慣れたようで、「火を見る係だったけど、昨日よりも協力してできたのでよかった。」という子どもの感想が見られた。子どもたちは、2回の野外調理をとおして、みんなで協力することのよさを感じた。また、スタントの練習過程において、「みんなで台本を書き直したり、弓矢を作ったりして本番が楽しみになってきた。」と仲間と達成させようという期待を感じることができた。キャンドルのつどい本番では、成功したことに自信をもち、みんなでやり遂げることのよさを感じることができていた。

ふるさとのよさを見つめるために、高岳登山を行った。砂千里ルートから中岳経由で高岳頂上を目指した。

険しい岩を登り、苦しげな表情も見られたが、子どもたちは、途中に見える景色のよさに疲れを忘れていたようであった。「頂上に ついて下見た いい景色」など、子どもたちは句をとおして、阿蘇の自然の素晴らしさを表すことができた。キャンドルのつどいでは、「火がとてもキレイで、もう明日で終わりかと思うと少し寂しくなった。」とつぶやく子どもがいた。

ふりかえりの場面では、「2日目から来たけど、みんなと友達になることができてよかった。ボランティアで来た人たちがいつもやさしくしてくれたからうれしかった。」「野外調理、ジオパーク探検、山登り、沢あそび、スタント練習、キャンドルのつどいなどをみんなと協力して出来たので楽しかった。」「山登りはとてもきつかったけど、頂上につくととても眺めがきれいで、阿蘇っていいなと思った。」などの感想が見られ、本事業の目標に十分迫ることができた。

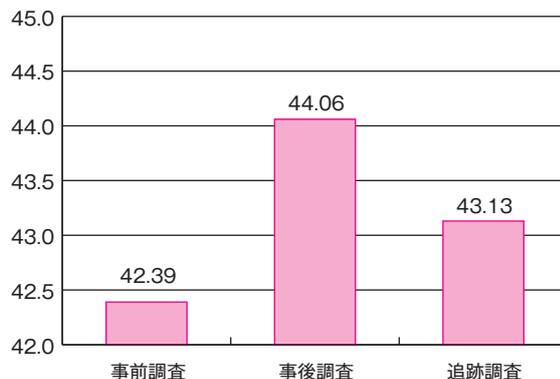
## 4 結果

児童の変容については、IKR（生きる力）をもとに調べた。

### (1) IKR（生きる力）アンケート結果より

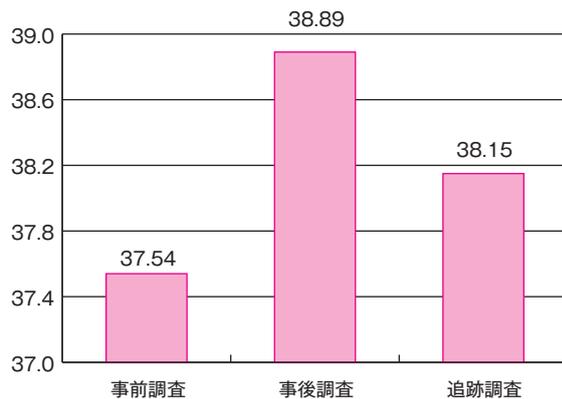
目標1 「ふるさとのよさに気づくことができる」

（IKR調査に独自に加えた項目の数字をグラフ化）



## 目標2 「協力して助け合う心を育むことができる。」

(I K R調査の「徳育的能力」という項目の数字をグラフ化)



### (2) 参加者の声

#### ① 一の宮中校区

- 最初は漕ぐのがきつく、みんなの息があわなかったが、練習したら上手にできた。
- ボードに乗ったり、船の上から飛び込んだり、貝殻をたくさん拾ったりすることができた。
- 磯観察で、ヒトデ、クラゲなどを見ることができた。初めて近くで見ることができた。
- 海のおいが、普段（自分が住んでいる町）とちがうにおいだった。
- 4泊5日をとおして、他の学校の友達と仲良くできて、交流が深まった。
- ふるさと体験活動教室をとおして、家族、先生、ボランティアの方々への感謝の気持ちがわいてきた。
- 草原が緑色できれいだった。また山や仏舎利塔も近くで見ることができた。阿蘇の自然のよさがわかった。

#### ② 山田小学校

- テントを張るのは初めてだったけど、みんなで協力して出来てうれしかった。
- 水基めぐりで、阿蘇のよさ（水のおいしさ）に気づいた。
- 天気がよくなって、草原や山を見ながらできたので、阿蘇の自然っていいなと感じた。
- 野菜を切るのを班の人と協力してできたことがよかった。
- 役割分担をして最後まで仕事をする事ができた。
- 野外調理の「高菜めしとだご汁」は、みんなで協力したからごはんはおいしく作れた。
- いつものみんなの姿だったけど、意外な一面を見ることができた。

#### ③ 阿蘇中校区 ～募集編～

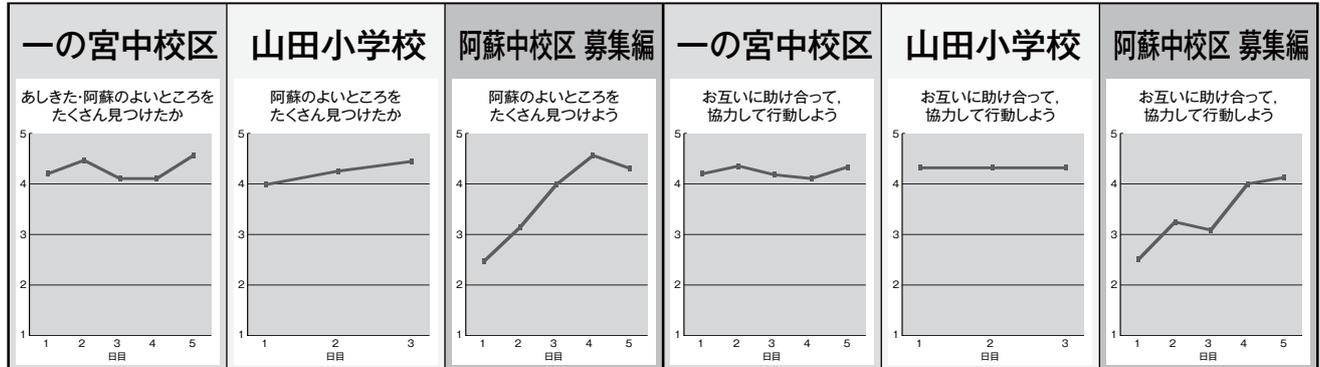
- テントを作るのは大変だったと思ったけど、友達と一緒に作ることができた。
- 野菜を切ったり、食器を洗ったりして大変だったけど、みんなで協力できたし、おいしく作れた。
- 水が冷たくて気持ちがよかった。飛び込むことができて楽しかった。
- 阿蘇を一望したらきれいだった。自分の住んでいる場所も知れていいところに住んでいるんだなと感じた。
- 火を見る係だったけど、昨日よりも協力してできたのでよかった。
- 2日目から来たけど、みんなと友達になることができてよかった。ボランティアで来た人たちがいつもやさしくしてくれたからうれしかった。
- 野外調理（高菜飯とだご汁、山のパエリア作り）、ジオパーク探検、山登り、沢あそび、スタンプ練習、キャンドルのつどいなどをみんなと協力して出来たので楽しかった。
- 山登りはとてもきつかったけど、頂上につくととても眺めがきれいで、阿蘇っていいなと思った。

### (3) 目標に関わるふりかえりの結果

横軸が日にち、縦軸は5段階評価を表したものである。(5がとても気づくことができた)なお、このアンケートは日々のふりかえりの時間にとったものである。一の宮中校区は10グループの平均、山田小学校は4グループの平均、阿蘇中校区は個人の平均を取っている。

「ふるさとのよさに気づくことができる」

「協力して助け合う心を育むことができる」



## 5 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 一の宮中校区

阿蘇のみならず、芦北でのプログラムを実施したことで、海のよさに気づくとともに、地元阿蘇のふるさとのよさを見つめ直すプログラム開発を行うことができた。

#### ② 山田小学校

水基めぐり、草原ドームテント作り、登山など2泊3日での内容の精選を図ったプログラム開発を行うことができた。

#### ③ 阿蘇中校区 募集編

野外調理、登山などに加えてジオパーク探検、沢遊びといった阿蘇の特性を十分に生かしたプログラム開発を行うことができた。

### (2) 課題

#### ① 一の宮中校区

芦北プログラムの日にちが長かったため、阿蘇プログラムの活動時間の確保が必要である。

#### ② 山田小学校

キャンプファイヤーでの出し物発表やチャレンジゲームといった、協力して助け合う心を育むプログラムの充実が求められる。

#### ③ 阿蘇中校区 募集編

開発した4泊5日のプログラムを普及させていく必要がある。

### (3) 3つの事業を通じた成果

① 日程、形態が異なっても、阿蘇フィールドの特性を生かした体験活動を行うことで、ふるさとのよさに気づいたり、協力して助け合う心を育んだりするという目標に迫る効果的なプログラムであった。

### (4) 3つの事業を通じた課題

① 阿蘇市自然体験活動に関する条例に基づいて、この事業をより多くの阿蘇市内の学校に広げたい。そのためには教育委員会と連携を図りながら、事業を行っていく必要がある。